自主防災組織マニュアル

~災害に強いまちをみんなで作ろう~



令和3年3月

多摩市

自主防災組織

1 自主防災組織とは…22 自主防災組織の役割…23 自主防災組織の運営…44 自主防災組織の結成…5

く資料>

避難行動要支援者 ····3

• 防災連絡協議会 ····18

5 平常時の活動

5-1年間スケジュール・活動計画を作ろう…65-2地域の災害リスクを知ろう…75-3防災資器材の点検しよう…85-4防災に関する正確な知識を持とう…85-5防災訓練で対応力を身につけよう…8

く参考>

・まち歩きチェックシート …19

防災資器材点検シート …21

活動チェックシート …22

6 各種訓練

(避 難 時)避難(誘導)訓練	9
安否確認訓練	···10
隔壁板破壊訓練	···11
煙体験訓練	···12
(応急対応)AED 訓練	···12
初期消火訓練	···13
転倒家具救助訓練	···13
(避 難 後)避難所運営訓練	···14
炊き出し訓練	···15

7 災害時の活動

地震、風水害のときの対応	···16
情報収集・伝達	···17
避難誘導	···17
安否確認	···17
被害状況の確認	···17
救出•救助活動	···17
応急活動·初期消火	···17
避難所での活動	···18

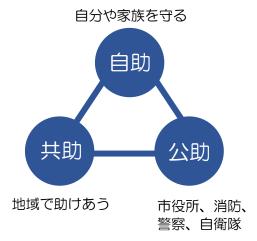
1

自主防災組織とは

自主防災組織とは、災害対策基本法に基づく地域の住民が "自主的"に防災活動を行う組織です。

大規模災害では、行政の救助や支援が届くまでに時間がかかります。だからこそ、地域の特性をよく理解している自主防災組織の活動が重要になります。

多摩市では、約180組織が結成されています。



<自主防災組織があるメリット>

- ●避難訓練を実施することで、迅速な避難を行うことができる
- ●支援が必要な住民のリストを作成することで、災害時に的確な安否確認を行うことができる
- ●避難所開設時に避難所の運営や情報共有がスムーズに行うことができる

2

自主防災組織の役割

	地域特性の理解	地区の危険箇所の把握、避難所や避難経路の確認、防災マップの作成
平	防災資器材の整備	ヘルメットやハンマーなどの防災資器材の管理、消火器の点検
常時の	防災知識の啓発	地域の防災マニュアル、情報誌の発行、防災イベントや研修の開催など
の活動	防災訓練の実施	初期消火訓練、避難訓練、安否確認訓練、応急救護訓練など
劃	避難行動要支援者	地域に暮らす避難行動要支援者(※)に対して、避難時の支援を行う体
	の支援体制の構築	制の構築など

	情報•伝達活動	地域内の被害状況の把握、テレビやラジオなどからの情報収集、災害に関
		する正しい情報を住民へ伝達
	避難誘導活動	地域住民などの安否確認、避難所など安全な場所への避難誘導、避難行動
災害	避無務等心期 	要支援者の避難支援など
災害時の活動	初期消火活動	消火器・スタンドパイプなどによる初期消火活動
古動	*b.1.1.*b=#\T.#h	倒壊した家屋などの下敷きになった人の救出、負傷者への応急的な手当活
_,3	救出救護活動	動、救護所への搬送など
	避難所運営活動	避難所の運営・設営、救護物資の配給、食糧の炊き出し、スタンドパイプ
	世報7月建名/自勤	による給水、避難行動要支援者への生活支援など

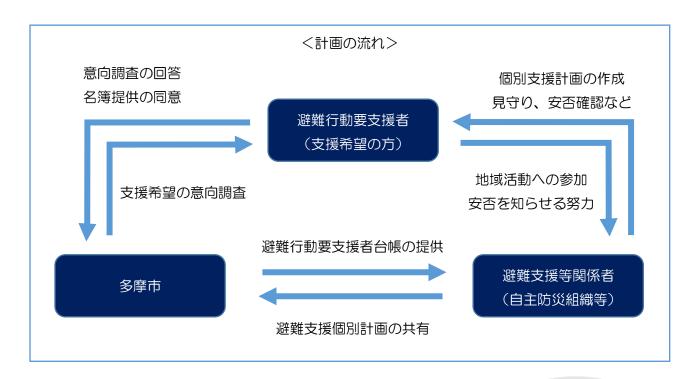
※避難行動要支援者…自力で避難が困難な方、障がいをお持ちの方など(詳しくは3ページ)

●避難行動要支援者とは

災害時に自力では避難が困難な障がい等をお持ちの方を、「避難行動要支援者」といいます。 地域の自主防災組織の方々の力を借りながら、避難に関する支援を受けられるよう、多摩市では 「多摩市避難行動要支援者避難支援個別計画」の作成を進めています。

多摩市避難行動要支援者避難支援個別計画

自主防災組織や自治会が主体となり、避難行動要支援者を支援するための個別支援計画の作成を進めています。多摩市では支援が必要とする方を把握するため、避難行動要支援者名簿を作成し、事前提供することに同意した方について、関係機関等で情報共有します。



<対象者>

以下の基準に該当する方のうち、本人が支援を希望した方

- ①介護保険における要介護3以上の者
- ②身体障害者手帳1~2級の者
- ③視覚障害者3~6級の者
- ④聴覚障害者3~4級の者
- ⑤人工透析者
- 6呼吸器障害者
- ⑦愛の手帳1~3度の者
- ※そのほか、地域の実情で支援を希望する方など

地域住民の助け合い (共助)で被害を最小 限に抑えましょう

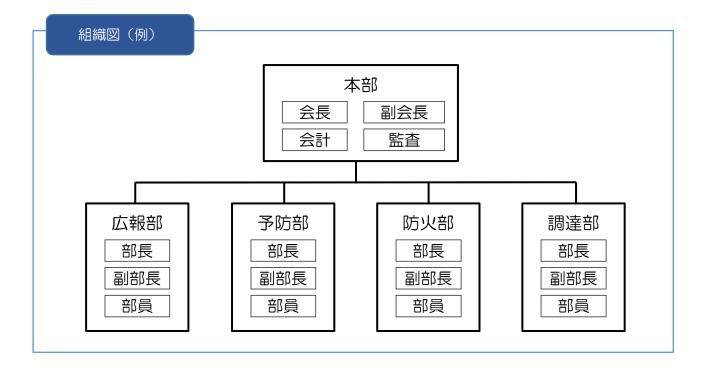


3

自主防災組織の運営

想定外の事態に対して臨機応変に対応できるように、それぞれの活動内容は理解しておきましょう。組織図、役割分担については、地域の特性や実情を踏まえて組織を編成しましょう。

※下記の組織図・役員名簿は一例です。



役割分担(例)		主な活動内容
広報部	平常時	回覧板による広報、防災情報誌の作成
以我可	災害時	的確な情報を把握し、被害状況などを伝達
予防部	平常時	区域内の点検、危険箇所のチェック
מפראנב	災害時	避難誘導活動、救護物資の配分や協力など
防火部	平常時	出火防止の活動(初期消火訓練など)、消火器の使用方法の習熟
מם אל נאו	災害時	初期消火活動、火災発生状況の把握
調達部	平常時	防災資器材の整備、保守管理
	災害時	負傷者の応急手当、食糧の炊き出しなど
		TO PARTIE OF THE



自主防災組織の結成

自主防災組織の結成には、まず何よりも住民の方々の理解と協力が不可欠です。自治会や管理組合 等で自主防災組織の結成について相談いただき、結成の手続きを行ってください。

<結成の流れ>

結成について話し合う

自治会や管理組合等で話し合い、 結成の同意を得てください。 新規結成には100世帯以上で 構成する必要があります。

※100世帯未満で結成する場合は、事前にご相談ください。

役員の選出、役割分担の決定

役員、活動班など役割分担を明確に して決定してください。

組織の規約を作成

住民の意見を取り入れながら、活動目的や活動内容をまとめましょう。

新規結成の届出

事前に防災安全課へ連絡の上、右記 の届出書類をご提出ください。



[届出書類]

- 自主防災組織結成届
- 組織の規約
- 役員名簿
- ・組織図(役員の構成図など)
- ・組織区域図(組織の範囲エリアなど)
- 防災用品交付申請書
- 防災用品受領書
- 自主防災組織送付先 回覧必要部数
- そのほか、市長が必要と認める書類

<市における新規結成組織への支援>

●防災用品の交付

ヘルメットなどの防災用品を交付いたします。交付物品は8ページをご確認ください。

●補助金の交付

新規結成から3年間は、防災訓練や資器材整備費用として補助金を交付します(年間5万円) 詳しくは、別冊「補助金マニュアル」参照してください。

5

平常時の活動

災害はいつ起こるかわかりません。大規模な災害な時でもしっかり対応できるためには、日頃の備えが重要です。いざというときにしっかりと対応できるよう、平常時から地域の方々で連携し合いながら防災・減災活動につなげましょう。

5-1 年間スケジュール・活動計画を作ろう

平常時の役割を参考に、年間スケジュールや活動計画を作成しましょう。 多くの方が楽しく参加できるように、無理のない活動計画を立てましょう。

<目標設定のポイント>

- なるべく具体的な目標を立てる
- 町会や活動班にわかれて話し合いを行う
- 緊急性、重要性、実現可能性などの基準を立てて、優先順位をつける
- ・ 実践的な訓練や調査を実施しながら、内容を修正していく

<活動例>

項目	目的	実施時期
地域を知る	地域の災害リスク・災害履歴を確認する	出水期の前(6月)
	地域独自の防災マップを作成する	
防災資機材の整備・点検	いつでも活用できるように防災資器材の点検	役員変更時(3月)
	防災倉庫の整理	防災訓練(9月)
防災知識の啓発	消防署や市などで防災に関する情報を収集	防災訓練後など
	防災に関する情報誌を発行、回覧、勉強会の開催	(12月ごろ)
防災訓練の実施	近隣の組織と連携した合同訓練の実施	防災訓練(9月)
	(学校を利用した防災イベントの開催など)	

<市における自主防災組織への支援>

●リーダー研修会の実施

年に1~2回ほどリーダー向けの研修会を実施しています。

●防災訓練の支援

防災訓練に必要な物品の支給や市の所有する訓練器材の貸出しを行っています。

●自主防災組織だよりの発行

防災に関する情報、イベントの案内など、年に2回発行しています。

●合同訓練への助成

2組織以上の自主防災組織が合同で訓練を実施する際に補助金を交付します。(年間5万円)

5-2 地域の災害リスクを知ろう

自分たちの住んでいる地域がどのような災害リスクがあるのか確認しておくことが重要です。 地域にどんな危険箇所があるか、災害時に役立つ資源があるかなど、まち歩きで確認した内容をまと めて、地域独自の「手作り防災マップ」を作りましょう。

> 参考1 まち歩きチェックシート

<防災マップづくりの流れ・ポイント>

災害リスクを知る

・ハザードマップ等を確認し、事前にチェックシートを作成

まち歩きを実施

- ・実際に歩いて、地域の情報を集める
- 作成したチェックシートを確認する
- ・写真やメモで記録する

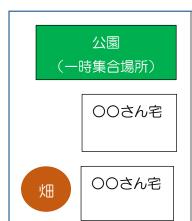
防災マップづくり

- シールやマジックなどを活用し、情報をまとめる
- ・なるべく詳しい内容を記入し、地図をつくる

マップ完成!

- ・完成した防災マップは地域で管理する
- ・防災訓練等で定期的に見直しする

※防災マップ(例)



消火栓

学校 (避難所)

コンビニ

危険! がけ崩れあり 地震の時は上空、 大雨の時は足元 に注意!



<把握しておきたい情報>

- 浸水想定区域
- 急傾斜地
- 土砂災害(特別)警戒区域
- ・狭い道路、急な坂道、階段
- ・ 倒壊のおそれのある建物 など
- 防災資器材の保管場所
- 消火栓、防火水槽
- 応急給水栓、井戸
- ・過去に被害のあった場所
- 防災行政無線
- ・ブロック塀、擁壁
- 自動販売機
- アンダーパス

消火器

5-3 防災資器材を点検しましょう

新規に結成される自主防災組織に対して、防災用品を交付しています。防災倉庫内の点検シート等を 作成し、責任をもって整備や定期的に点検を行いましょう。

<助成する防災物品> ※記載の数量は上限です。

参考2 防災資器材点検シート

品名	数量	品名	数量	品名	数量
ヘルメット	10個	担架	1 基	スコップ	5本
メガホン	3個	トランジスタメガホン	1台	FM 付ラジオ	1個
懐中電灯	5本	毛布	1 枚	物置(注)	1 棟
のぼり旗	1本	バール	2本	(注)原則は1棟	とする。
ロープ	2巻	のこぎり	2本		

※大地震の際には停電が予想されます。停電時の夜間でも 使用できるよう、非常用電源や照明の確保が必要です。

つるはし

20本

防災器材格約庫

5-4 防災に関する正確な知識を持とう

防災の取組みは、各家庭の対策から始まります。防災の心得や備蓄品など防災に関する情報を回覧 板などで周知しましょう。

<防災知識の例>

- 地震や台風、大雨の知識と被害想定
- ・ 家族の安否確認、避難方法の確認
- 避難情報が発令された場合に取るべき行動
- ・災害時の備蓄品、非常用持出品の準備
- ・ 家庭内の安全対策

(家具転倒防止、ガラスの飛散防止、ブロック塀の点検など) など

YouTube 多摩市公式チャンネルで防災動画を配信中!ホームページでも新しい情報を更新中です!

2本

※防災に関する DVD の貸出しを行っていますので、必要な場合はお問い合わせください。

5-5 防災訓練で対応力を身につけよう

自分たちのまちを守るためには様々な災害に対する訓練を行う必要があります。被害を最小限に抑えるために、地域で一丸となって取り組みましょう!

訓練内容や訓練方法については、9~15ページを確認しましょう。



防災訓練(内容・方法)

避難時の訓練、応急対応訓練、避難後の訓練とシーンにわけて紹介します。

避難時の訓練

避難訓練

安否確認訓練

隔壁板破壊訓練

煙体験訓練

応急対応訓練

初期消火訓練

応急救護訓練(AED等)

転倒家具救助訓練

避難後の訓練

避難所運営訓練

炊き出し訓練

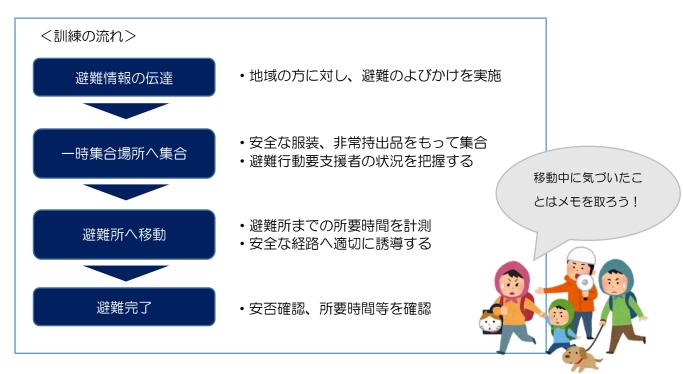
防災資機材使用訓練

避難(誘導)訓練

防災マップやハザードマップをもとに、事前に避難ルートを作成し、避難所までの所要時間を確認しましょう。

<訓練のポイント>

- 風水害時、夜間時など様々なシーンを想定して訓練を実施する
- 地域独自の「手作り防災マップ(アページ)」を確認しながら避難する



※一時集合場所…災害から一時的に避難する場所で公園などの広いスペースのこと

安否確認訓練

地域での安否確認は、逃げ遅れを防ぎ、犠牲者を減らす第一歩となります。地域の実情に合った安否確認方法をあらかじめ決めておきましょう。

(例) 黄色旗を掲げる安否確認訓練

地震災害時の安否確認の手段の一つとして、「無事」を伝える黄色旗等を掲示する方法があります。短時間での安否確認と共に、救助が必要な人がいるか即座に判断できる目印になります。



<訓練の流れ・ポイント>

訓練周知

- •「無事旗」(黄色の旗やタオル、ごみ袋等)の準備
- 不参加の場合は訓練担当者に事前に連絡する

(1回目)安否確認

• 指定の時間になったら、各世帯は玄関やベランダのフェンス等に「無事旗」を掲示する

集計

・役員は掲示状況を確認し、安否確認の結果を集計する

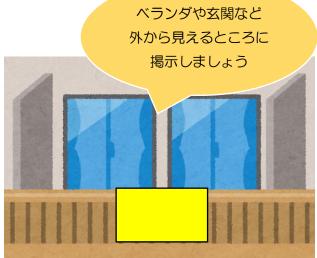
戸別訪問

・不参加の連絡も、無事旗の掲示もなかった世帯には、 個別で安否確認を実施する

(2回目)安否確認、集計

• 2回目の安否確認も実施し、全ての世帯の安否確認ができたら訓練終了





隔壁板破壊訓練

集合住宅やホテルで、災害時に玄関やドアなどから外に出られなくなった場合に、隔壁板を破壊して脱出することができます。

※隔壁板…ベランダ等に設置されている隣の部屋との境の板

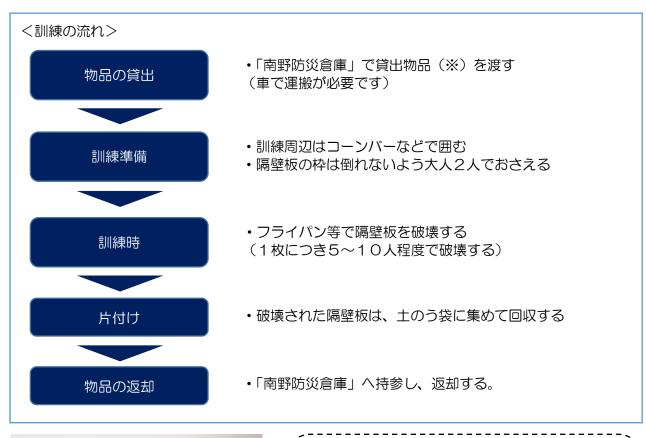


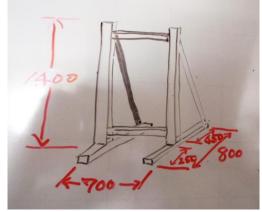
<訓練のポイント>

- 隔壁板の数量は限られていますので、訓練参加者は事前に決定してください。
- けがをして避難できなくなるため、素手や足での隔壁板の破壊は行わないでください。

必ずチェック!

[多摩市へ] 1ヵ月前までに「訓練申込書」を提出し、貸出日時を調整





<隔壁板の枠サイズ>

※貸出物品※

- 隔壁板の枠(分解できるものもあり)
- ・ 隔壁板の板(数枚)
- 破壊する器具(フライパンなど)
- そのほか、ブルーシートや三角コーンなど

煙体験訓練

火災時に煙の中をどのような体勢で、どのように動くのかを 学ぶ訓練です。

<訓練器材>

- 煙体験ハウス(外や広いところで実施する場合に貸出)
- スモーク発生機(機械を動かすには電源が必要です)
- スモーク液(身体に安全なものを使用)



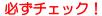
必ずチェック!

[消防署又は消防団へ] 事前に訓練指導を依頼 [多摩市へ]「防災訓練申込書」を提出し、物品の貸出日時を調整

(書訓練の流れ) 煙体験ハウスの組立て ・組立は4~5人程度の複数人で実施 ・ハウス内の横幕は交互にはる、高さは低めに設置する ・幕を全部しめ、スモーク発生機でスモークを発生させる(全体に煙が回るまで最低30分かかります) ・入口・出口には職員が張り付き、子供の場合は2~3人、大人の場合は1人ずつ中に入れる ・ハンカチ等を口に当て、低い姿勢で、壁に手を沿えながら避難する

応急救護訓練(AED等)

災害時、医療機関で診察を受けるまでの処置をいち早く対応するための訓練を行います。



[消防署へ] 事前に訓練指導の依頼する



※AED 使用訓練(自動体外除細動器)

災害時に心停止した人に対して、早期に心肺蘇生法と AED を用いた電気ショックを行うことが救命率のアップにつながります。地域周辺の AED 設置場所を確認し、確実に使用できるように訓練しましょう。

初期消火訓練

地震が発生した際に最も被害を拡大させるのが火災です。各家庭での初 期消火が間に合わない場合には、その場所の地域の人で初期のうちに消 火することで火災を防ぐことができます。



<訓練方法>

①消火器による初期消火訓練

消防職員から使用方法について説明を受け、近所での初期消火ができるようにしましょう。

必ずチェック!

[消防署へ] 事前に訓練指導の依頼

<訓練方法>

②道路上の消火栓を使用した初期消火訓練

専用の資器材を使用して、道路上の消火栓を消火活動に利用できるようにしましょう。 ※専用器材…スタンドパイプ、消火栓ホース、スピンドルドライバーなど

必ずチェック!

[消防署へ] 事前に訓練指導の依頼

[多摩市へ] 以下の書類を訓練実施日の1ヵ月前までに提出 ※「防災訓練申込書」、「使用する消火栓が記載された地図」

転倒家具救助訓練

大規模地震の際は、家具の下敷き、倒壊した建物に挟まれる恐れがあります。のこぎり・ハンガー・バール・ジャッキなどの資器材を使用して、倒壊家屋や家具の下敷きになった人の救出方法を習得しましょう。

<訓練のポイント>

- 救助にあたっては、要救助者に対して声をかけ安心感を与える
- 要救助者の状況を確認し、作業の妨げになる部分を慎重に取り除く
- 倒壊物に隙間をつくれたら、崩れないよう角材などで補強する



必ずチェック!

[消防署へ] 事前に訓練指導の依頼

[多摩市へ] 事前に「防災訓練申込書」を提出し、貸出日時の調整 (貸出物品の家具等は、諏訪防災倉庫にあります)

避難所運営訓練

災害時の避難所は、被災により非常に困難な状況で、円滑に避難所を開設し、運営する必要があります。「防災連絡協議会」を設立し、自主防災組織同士や学校などの施設管理者等で十分に話し合いを 行いながら訓練を行いましょう。

<訓練方法>

①学校などを利用した合同訓練

実際に避難所になる施設等を使用し、決められたルールに基づいて訓練を実施しましょう。

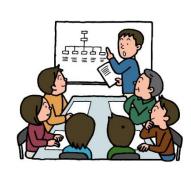
※「避難所運営マニュアル」(平成26年9月策定)を参照

<訓練方法>

② 避難所運営ゲーム(HUG)

(H:避難所、U:運営、G:ゲーム、訓練) 避難者の情報が記載されたカードを、避難所の体育館や 教室に見立てた平面図に配置していく訓練です。

多様な出来事に対して、どのように対応していくかを 意見を出しながら振り分けます。



必ずチェック!

[多摩市へ]「防災訓練申込書」を提出し、貸出物品の貸出日時を調整

<訓練の流れ>

訓練説明

- 指導者から、訓練のルールや進め方を説明 (想定の災害の種類や被害情報などもあわせて説明)
- ・進行役、カード読上げ役、タイムキーパー役を選出
- ・テーブルの中央に図面等を広げて準備を行う
- 訓練
- カード読み上げ役が、「避難者カード」「イベントカード」を順番に読み上げる
- ・ 実施時間内にできるだけ多く配置していく

まとめ

・訓練終了後に、グループ内での課題(配置に悩んだ 避難者等)を共有し、今後の運営活動の参考にする

炊き出し訓練

避難後の食糧や水の確保、配給方法について訓練を行います。避難所に設置されている地区防災倉庫内のバーナーや大鍋を使用して、避難用食糧の調理法について習得しましょう。

<訓練ポイント>

- ・釜や大鍋などの燃料の確保、水加減、火加減を取得する
- 災害時給水ステーションや、応急給水栓からの給水方法を確認する
- ・備蓄食糧の特徴や食べ方を知る
- 幼児や高齢者向け、アレルギーの方への食事について検討する



※防災訓練での備蓄食糧の提供をしています!

市が備蓄している非常食を訓練用として提供します。詳しくは防災安全課へお問合せください。

防災資器材訓練

地域の防災倉庫の中を点検しながら、万が一に備えて、資器材の利用方法について訓練をしておきましょう。

●簡易トイレ等の組み立て訓練

電気や水道が利用できない状況下で、トイレの設置は重要です。市で備蓄している災害用 応急トイレ(マンホールトイレ等)や、各家庭での簡易トイレの使用方法を学びましょう。

●防災資器材の使用訓練

避難所などに設置している地区防災倉庫には、災害時に備えて様々な資器材をいれています。 また、資器材がどのような場面で・どのように使用するか、状況なども検討しましょう。 <例>

折りたたみ式テント、折りたたみ式リアカー、投光器、防災伝言シート、灯油バーナーなど



地域の状況にあわせたオリジナルの 訓練を実施しましょう!

防災工作

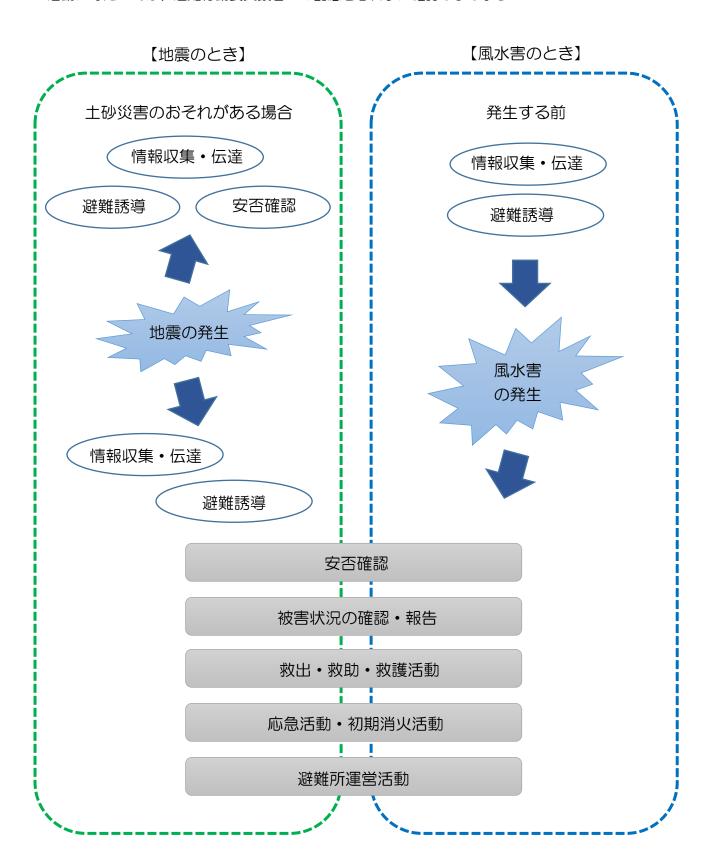
防災かるた

クロスロード



災害時の活動

災害時、自主防災組織には安否確認、消火・救出活動など様々な活動が求められます。それぞれの 活動にあたっては、避難行動要支援者への配慮を忘れずに確認しましょう



情報収集•伝達

市からの避難情報や緊急情報を収集し、 速やかに住民へ伝達する必要があります。 また地域を巡回しながら、被害状況を把握し、 必要な対応をとりましょう。

<ポイント>

- 人命に関わる情報を直ちに対応する
- 5W1Hが抜けないようメモをとる
- 入手した情報は必ず情報源を確かめる
- あらかじめ情報を集めて周知する場所を 事前に決めておく

安否確認

地域で声を掛け合い、安否確認を行いましょう。避難所では住民の避難状況を確認し、市へ速やかに報告してください。

<ポイント>

- 自身の身の安全を確保する
- ・救助や手助けがいる場合は協力して助ける
- •あらかじめ名簿を用意して、安否確認を行う
- ・一目でわかる目印を玄関などに掲げるなど、 地域ごとに安否確認方法を工夫する

救出•救助•救護活動

救助を必要とする人を発見した場合、協力で きる人を集めてから救出活動を行ってくださ い。また対応可能であれば応急手当も実施し ましょう。

<ポイント>

- ・作業中は余震の有無や足場の安全等を確か め、二次災害が起こらないように注意する
- •倉庫内の資器材を使用し、救出等を実施する

避難誘導

避難の際は地域で声を掛け合い、速やかな避難を呼びかけしましょう。避難行動要支援者がいる場合は、避難支援を行いましょう。

<ポイント>

- ・被害等がある場合は、危険な場所を避け、 安全な避難経路で避難所へ誘導する
- ・住民の生命に危険が及ぶおそれがある時は、 自主防災組織の判断で避難を呼びかける
- ・避難に危険が伴う場合は、2階以上や近くの 高い場所へ避難する

被害状況の確認・報告

被害状況の確認は、調査区域を分担して実施 しましょう。地域内の被害状況は、速やかに市 へ報告してください。

<ポイント>

- ・ 必ず複数人で行動し、周囲に注意して被害 状況を確認する
- ・「被害なし」についても災害の状況を把握 する重要な情報なので、忘れずに報告する

疝急活動 • 初期消火活動

災害発生時には出火に注意し、防火を呼びかけます。火災を発見したら周囲に知らせると共に、無理のない範囲で消火活動を実施しましょう。

<ポイント>

- ・初期消火活動の前に避難経路を確保し、危険 な場合は速やかに退避する
- ・水害や土砂災害のときは、土のうなどで浸水 や土砂の流入を防止する

避難所運営活動

避難所の開設・運営は、自主防災組織や施設管理者等で構成される防災連絡協議会※と地域住民、市職員が協働で行います。

<ポイント>

- ・実際の運営については「避難所運営マニュアル」を参照する
- ・避難所外の避難者への支援を検討する
- ・防火・防犯活動も兼ねて巡回を行う

皆様の協力が、防災・減 災へとつながります



※防災連絡協議会(避難所運営協議会)とは

家の倒壊等により避難しなければならない場合に、避難所生活全体の運営を自主防災組織などが中心となり実施する組織です。多摩市においては、避難所運営だけでなく、防災に関する事業や活動を実施していただくため、『防災連絡協議会』として連携強化を図っています。

「防災連絡協議会の設立及び避難所運営等に関する協定」を締結







- ・ 地区防災倉庫の鍵の管理
- ・避難所運営マニュアルの作成、更新
- ・災害対策用資機材の点検や改善の要請
- 合同訓練、避難所運営訓練の実施

- ・ 地区防災倉庫の鍵の貸与
- ・ 改善依頼のあった資機材の更新
- 防災訓練時の食料や資機材の提供
- ・訓練指導の支援など

感染症を踏まえた避難所運営、避難方法なども案内しています! 資料が必要な場合はお問い合わせください!



参考1 まち歩きチェックシート

※こちらは見本ですので、組織にあわせた内容で独自で作成してください。

(No.1)

災害	項目	XO
	土地が通常の河川の水位より低い	
	河川カーブの外側となる護岸が低い	
	河川護岸にひび割れ、欠損、剥離などの損傷がある	
\ <u></u>	河川護岸が途切れた箇所があり、川の増水で越流する	
河川	河底に堆積した土砂や繁茂した草木で増水時に越流のおそれがある	
氾濫	機能できないと思われる堰、樋門、水門がある	
, <u></u>	橋脚の間隔が狭く、流木などが引っかかりやすい橋がある	
	雨が降ると溢れやすい箇所がある	
	過去に氾濫した箇所がある	
	流域の川の近くに民家が多い	
	「土砂災害(特別)警戒区域」や「急傾斜地崩壊危険箇所」がある	
	がけ崩れのおそれがある箇所がある	
	のり面に突出した高い樹木がある(強風で斜面が緩む可能性あり)	
がけ	斜面にある道路や水路などが傾いたり、変形している	
け 崩 れ	がけの中間や頂上に割れ目がある	
10	雨が続くと、がけから水が湧き出す	
	がけの中間や頂上から岩が突き出ている	
	がけ崩れ対策がされた場所にひび割れなどがある	
	土石流のおそれがある箇所がある	
	渓流の上流にがけ崩れや裸地がある	
+	谷の出口に、土石や流木が引っかかりやすい橋梁などがある	
土石流	渓流の底に土砂が堆積している	
流	過去に土石流が発生した箇所がある	
	砂防堰堤が満砂の状況である	
	民家付近で川の屈曲が多い	
	ガードパイプなどの柵やてすりのない水路や側溝がある	
	浸水すると歩道と道路の段差がわかりづらくなる箇所がある	
浸	豪雨により、ふたが外れやすいマンホールがある	
浸水災害	大雨で川のようになる傾斜路がある	
害	アンダーパスや地下道があり、浸水時に通れなくなるおそれがある	
	水はけの悪い土地がある	
	水路や側溝に雑草が繁茂し、ゴミがたまっている	

まちあるきで気づいたことをメモしよう!

(No.2)

災害	項目	XO			
	ガラスの破損・飛散のおそれのある高い建物がある				
強風	落下や飛ばされるおそれのある広告物がある				
	風当りの強い場所に、老朽化した構造物がある				
	昭和56年以前に建築された建物(新耐震基準を満たさない)が多い				
•	倒壊して道路をふせぐおそれのある建物(道路閉塞建物)がある				
地 震	ガスボンべなどが固定されていない				
	自動販売機が固定されていない				
	路地などに転倒防止策をしていない高いブロック塀がある				
	ブロック塀にひび割れ、欠損、剥離などの損傷がある				
	ゴミステーションが設置されていない				
	家屋の周囲に燃えやすいものがある				
	施錠していない倉庫がある				
火災	家屋が密集している				
	道が狭く緊急車両の近づけない地域がある				
	地域の山林にキャンプ場がある				
	野焼きや焚火をする習慣がある				
	公衆電話の位置を把握している				
	AED の設置場所を把握している				
その	地域近辺の病院とその種類を把握している				
の 他	防災備蓄倉庫の位置を把握している				
	飲料水兼用型防火水槽の位置を把握している				
	生活用水に利用できそうな渓流、井戸がある				
まちあるきで気づいたことをメモしよう!					

参考2 防災資器材・防災用品 点検シート

※こちらは見本ですので、組織にあわせた内容で独自で作成してください。

<防災倉庫>

	防災倉庫・保管庫に損傷はないか(雨漏り、転倒のおそれがないか)					
	防災倉庫・保管庫の鍵がすぐに使用できる状態で保管されているか					
	点検記録を倉庫付近に備えつけているか					
	夜間でもすぐ使用できるように非常用電灯が扉付近に用意されているか					
< 例	<防災資器材・防災用品>					

	資器材を使用す	るための燃料	・バッテリー、	部品等が用意されて	ているか
--	---------	--------	---------	-----------	------

- □ 女性や高齢者など誰でも使用、操作ができるか
- □ 使用(賞味)期限を確認しているか

区分(主に使 用する班等)	品目	必要数	現数量	備考、メモ	点検日/結果
(例)					
給水班	かまど	1	1	防災訓練で	○月○日/ ◎
				使用方法を学ぶ	
救出救護班	簡易トイレ	30	20	会費にて追加で購入予定	O月O日/ ×
救出救護班	投光器	2	2	夜間での使用方法を学ぶ	0月0日/ 0

※点検結果の希望の例

◎:保管状況良好、○:使用期限や賞味期限が近い(次回要確認)、△:一部不具合あり

×:使用不能(買い替えの検討)、☆:存在しない、確認できない

参考3 自主防災活動チェックシート

※こちらは見本ですので、組織にあわせた内容で独自で作成してください。

項目	内容	XO
組織づくり	自主防災組織として災害時に機能する体制になっているか	
	防災活動ごとに班編成ができているか	
情報提供	地域の方にわかりやすい防災情報を提供しているか	
	女性や高齢者、障がいのある人などの意見が活動に反映されているか	
防災訓練	防災に限らず、地域の方が交流できる行事が行われているか	
	定期的に防災訓練を実施しているか	
	過去の訓練を検証して、見直しや新たな訓練手法の導入を心がけているか	
防災計画	地震、風水害、火災など災害別に避難計画を作成しているか	
	過去の被害実績や土地の情報などを踏まえた防災マップを作成しているか	
	各班の行動マニュアル(行動の段取り)はできているか	
	組織内での災害対策本部は、いつどこに開設するか決まっているか	
	本部や各班の行動マニュアル(行動の段取り)はできているか	
	災害時の地域内の情報をどのように収集するか、方法は決まっているか	
	具体的な避難計画(避難先、避難ルート、所要時間設定など)ができているか	
防災用品	防災用品の保管はしっかり行われているか	
	地域で使える消火器の場所を把握しているか	
	建物倒壊時、救出用の道具や工具など運搬方法は準備できているか	
	負傷者の応急救護用の防災用品はあるか	
	トリアージや心肺蘇生法を的確にできるか	
	地域で使用できる AED は配備されているか、場所は把握しているか	
避難関係	避難生活計画書は作成、整備されているか	
	避難所の場所は地域の方が誰でも知っているか	
	被災後の在宅で暮らす人の状況を把握する体制はできているか	
	被災後の防犯活動、避難行動要支援者の支援を考えているか	
	被災後のし尿や廃棄物、一定規模の瓦礫等の処分は考えているか	

気づいたことをメモしよう!



【防災講座、防災訓練指導、防災資機材の貸出しなどをご希望の方へ】 防災安全課までご相談ください。(042-338-6802)

●ハザードマップ ●防災訓練 ●研修会 ●総合防災訓練 など

【消火訓練指導、救命講習などを希望の方へ】 多摩消防署までご相談ください。(042-375-0119)

●火災予防について ●応急手当 ●心肺蘇生法 ●AED の使用方法 ●消火器の取扱い方法 ●起震車、VR 体験車などの予約 など

> 多摩市役所 総務部 防災安全課 防災担当 〒206-8666 東京都多摩市関戸6-12-1